

水源禅師法話集 34

(2014年9月28日 生駒合宿)

2015年9月3日

一乗会



生駒合宿所横の鳥居

目次

合宿後（不動尊護摩供後）の水源禅師法話.....	1
水源禅師のこれまでの足跡.....	1
合宿中の質疑応答.....	11
世界中どんな人でも心は一緒.....	11
弘法大師、龍樹菩薩、観音菩薩、宝塔、八大龍王.....	11
いろいろな目に見えない生命体.....	14
オーブと霊魂.....	25
罪悪感がなくなっている.....	27
外国の罨.....	28
国の象徴—盗る国と盗られる国—.....	30
ジャイナ教.....	31
旅の醍醐味.....	33
巨大な石を動かす秘術.....	36
浮こうとしたら沈み、沈もうとしたら浮く.....	38
神通で人を助ける.....	39
合宿の感想.....	40

合宿後（不動尊護摩供後）の水源禪師法話

水源禪師のこれまでの足跡

そういうことで「色即是空」、つまり、この物質の究極「四大」全部、観ます。地水火風。「空即是色」そこも観ます。「空も観なければいけない」という全ての行をやらせてもらいました。「一切諸法は空」、それも観ます。それは「人空」「法空」「空空」まで行きます。空も三段階。四段階それは仏の世界。だから、ここの中でいくら無量の命を投げ捨てても、それで法は得られません、ということ。命の尽きることなく、いくらいくら法を学ぼうと思っても、結局この「観自在菩薩」「行深」ここをやらなければ通過できませんと、最初から言っています。「五自在」それには、1000年前に泉涌寺の和尚さん（月輪大師俊苧）が中国に渡って、月輪を得るためにニミッタ（禅相、丹光）を得るために12年、中国でこのアナパナ（入出息念）をやったわけです。それによって初めて、この弘法大師様が持ってきた『般若心経』が全部、分かるわけです。これなくしては観えないわけです。つまり、過去も観なければいけないわけです。自分の過去も未来も観なければいけない。お釈迦様の言っていることは間違いないと。これがいまだに日本で、誰もこれを詳しく説明した方はいないようです。

ただ、私は達磨大師の禅法、それから奇しくもチベットの密教の教え、そして南方の最高峰のミャンマーの禅法。南伝、北伝、それと密教が合わさって初めてこれが完成して、そしてこれは偶然ではないわけなのです。ここの場所を発見したのはですね、インドネシアのボロブドゥールというところ。なぜ、そこを発見したかと言えば、ちょうど今から10年以上ですね、2012年に行をやって11年目。十一面観音、11年。その9年目にして初めてその場所を発見したわけです。私がインドで、お釈迦様が最初に説法したサールナートの前で瞑想していたら、孔雀が踊り始めるわけです。その後、バーンと不思議な映像が出てくるわけです。二つの門に火天が現れるわけです。火天ということも分からなかった。そして「何だろう、何だろう」と思いながら、9年かかって世界中、探し回って、その場所が分かった。なぜ分かったかと言ったら、ちょうど二つの白い石でできた門と、その緑の垣根があるわけです、「同じ、あ、ここの場所だ！」と。

それで調べてみたら、これは龍樹菩薩様が設計された寺院建設であって、ここには龍樹、龍智、金剛智、不空菩薩。この方たちが設計し、建設したようです。そして、龍樹菩薩様が、弘法大師様が日本に来るまで、ずうっと見ていたわけです。法が、ここにちゃんと護摩行が渡って、それで亡くなられたわけです。その後、200年後に、1000年前に、その法灯が消えたわけです。だから、日本にだけ胎蔵界・金剛界があるわけです。チベットには金剛界しかなくて、胎蔵界はないわけです。なぜかと言ったら「1000年前に、そこにインドから来たお坊さんが、14年修行したはず」と、そこのお坊様が言っていました。そして、チベットに渡って持っていったのは、金剛界だけだから、半分なわけです。その流派が今のダライ・ラマ派です。

だから、日本に全てあるわけなのです。だから、チベットでは朝から晩まで『般若心経』を唱えます。北伝は全て『般若心経』。その『般若心経』を分かるには、やはり五自在を使わなければ、観えないわけなのです。月輪を使わなければ、ニミッタ。その手法が南伝のパオというお寺にだけ奇跡的に残っていたわけです。それが旅をする間にカンボジアで、あるすばらしいお医者さんから「そこに行ってみなさい。そこに行けば四大が観られると。地水火風の究極の世界が観られます。」と。「そういう行法があるのか？」ということで、そこに行ったわけです。実に、全てお釈迦様の40の瞑想方法を教えてくれます。もちろんお釈迦様のお姿も観えます。自分の過去も観えます。弥勒菩薩様が今、修行している天界も観えます。という、こういうすばらしい修行されるお坊さん方が先頭であるはずなのに、結局、今は文学仏教で、文献仏教で、何をやっているか分からないのが、今の現状です。

というのは、私のお世話いただいているAさんは博士課程で仏教の専門でお寺に生まれて、そして私が昨日「ウトウ (utu)」（時節：四起因色聚の中の寒冷時節、暑熱時節）という「熱の物質」のことをちょっと説明したわけです。日本語では分からないから、アビダンマに書いている『阿毘達磨俱舍論』は分かりません」と。この方が分からなかったら、誰が分かりますか？それは非常に大切なヴィパッサナー（観）では、何も難しいことではなく、実際に観せます、そこを。つまり観ていないから、経典にあるのだろうけど、吹っ飛ばして、そこは教えない。それが今の現状で1500年前に菩提達磨様が中国に来たときも文献仏教で、法というのはダンマ（真理）、法というのは字に書けないのです。心心伝印でしかないわけ。

今この護摩行も心心伝印で、形はありますけれどね。動きを心で止めなければ、できないはずですよ。そして、やれば必ず不動明王様が現れます。そこに降りましたよ、出てきていましたよ。

法を持ってやれば、私みたいなものでも、もうバンバンと不動明王様のすばらしい智慧の火がファーッと現れて、それほど純化された火はないです。そこには仏界の究極の秘密があります。到底、文字では分かりません。最後の「オンボロ、オンボロ、オンボロ」と。あれは究極の秘密で、観なければ、何のことか分かりません。これはもう今、最高の宇宙科学の、それから物理学者が求めているところをちゃんと分かっているわけです。それがパーンと出てきます。それを説明しなければいけないわけです。

だから、私の弟子は大学の物理学の先生方とか、それでみんな帰依して今、仏教を勉強しているのです。だから、今はまあそういうふうな法を持てば、全て観えますから。そういうふうにして世界に広がる時だと思えます。そうでなければ、もう人心が荒れて、アメリカはもう大変なことになり、南米もそうだし、もうヨーロッパも。このまま行けば、いつ死んでも分からない状態なのです。ここでただ一つ法さえ持てば、この地球が爆発しようが、宇宙が爆発しようが、全く関係なく、すぐ転生してしまうから。つまり、そういう自分が「過去、何回も生まれ変わり」をずうっと観たら、もう生死を超えてしまいます。死ぬということはない。そこまで観て人を導けます。

それで、こういう『般若心経』の全ての行を全部させられて、こうずうっと回って、今この日本が最大の危機だったわけなのですね。それで、なぜか来たときに、ここを発見して、ここはゴールデンポイントというか、聖なる場所なわけです。というのはインドネシア、そ

ここでは金剛界・胎蔵界に、この場所があるわけです。日本にもあるはずだと、そこはどこかと、金剛界は青不動、胎蔵界は赤不動、そして東寺は青不動、高野山は赤不動、この聖なる場所、ゴールデンポイントを探してくれと。Aさんに言ったら、ここなわけです。なんとここで『般若心経』を今やられたと。普通の他の護摩焚きは『般若心経』はやらないわけ、他の護摩焚きは。そこにポーンと私の法身をお捧げしたわけです。これで成就したわけです。



水源禅師が法身を捧げた不動尊護摩供

そうでなければ、もちろん、その気で非常に素晴らしいことが起きるけれども、家があって人が入らなければ、無駄なわけです。結局、仏があつて法を持つ。そしてそれを実行すると。仏法僧、これが一体にならなければいけないわけです。法というのは、それを観た人だけが分かるわけです。だから、仏という家をつくって守っているけれども、これに法が入ることによって、今度は本当の活動ができるわけです。本当の活動ができます。

というふうに、ミャンマーでは1048歳のお坊さんも、今も生きています。そのお弟子さんが760歳、ウ・コビタさん。だから、ヒマラヤで達磨大師様が1500年生きてるのは当然。龍樹菩薩様がウンと思えば、スウーッとやってきます。というふうに、この宇宙は、私たちが考えているような新聞の世界ではないのです。摩訶不思議なことがいっぱいあります。ただ、それを隠し隠し隠して、本当の仏道に進めないようにしています。世界で一番困るのは、

この仏道なわけ。あとは神に願えばと、そういう神はありません。イスラームはもう大戦争、ヨーロッパも戦争、ただこの仏法だけは「カルマ」(業)と「因縁」をちゃんと教えて、神頼みは聞きませんと。最終的には自分が直さなければいけないと。という法を、仏法だけが「煩惱を消す力」があるわけです。あとはないです。だから、この一瞬の短い間に、名誉とかお金とか、それで墮ちるよりは、法を一つでも受け取った方が、それはもう宝くじに当たるよりも確実です。

という今、皆さんが法を求め、また法を実行されている方、仏に縁があると。これは大変なことなのです。南アメリカに行けば、仏教の仏の字も聞けないし、「何が何だかわからない」と言う。アメリカとかヨーロッパは少数ですが、今これを一生懸命、勉強しています。だから、この仏国、日本に生まれて、弘法大師様のこの行をやらせてもらうという、これは大変なことなのです。それ自体も、あんまり皆さん、この宇宙で仏法に出会うということは「奇跡中の奇跡」なわけ。ということが『般若心経』の行を全部やれば、観えてきます。お釈迦様は弟子の「あの山、全部、見えるか?」、「はい」、「あの山の数くらい私は頭を落とした。あの天界にある星、見えるか? あの星くらい私は目を抜かれた」と。そうして法を持ってこられた方なのです。

この私たちは、この一宇宙体ではないわけですよ。一阿僧祇劫、どれくらいの時間帯か、1カルパ、一劫と言っても、どれくらいの長さなのか、57億8000万後に弥勒菩薩様が出られますと。それを一劫の長さ、それも小さい一劫。中劫、大劫。それに一阿僧祇劫、不可思議劫、無量劫。という大変なものを私たちは戴いているけど、このたった5000年の2500年、今、最高潮にいるわけなのです。世界中、旅できるから。文献できて自由に経典を読めます。今ここであなた方は別、もうこの世界に入っていますから。入らない衆生に、いかにして弘めていくかと。だから今日、祈禱するのもすばらしい。何でもよいわけですよ。仏にくっ付きさえすれば。いつかはこの糸で救われますから。

私の同僚でヴィパッサナーをやった、ミャンマーの比丘が「私はこれから兜率天に行く」と、「ああ、それはよい、それは私も行きたいところだ」と。そういうふうに願って喜んで。その比丘の方は「でも私は地獄に墮ちたことがある」、「いやーお前よく出てきたな」、「はい、そのときカシャパ仏陀(迦葉仏)、一劫前のブツダにお供えしました」、「なんでお前が地獄に墮ちたのか?」、「実は女3人を焼き殺しました」、「多分、焼きもちでした」、「家に火を点けているわけ。それで一劫の間、「ただ熱い、熱い、熱い、熱い」だけらしい。次に生まれたときは片足のないホームレスになって、一生、路上で暮らしたそうです。そして、6回目の転生で、法随観を完成して、自分の過去世を観ることができたのです。ヴィパッサナーやれば、全部、自分の過去が観えるわけなのです。だから『法華経』読むにも、自分の過去を観なければ『法華経』読めません。いくら丸暗記しても意味なし。だから、そういうふうに、次のときは片足がなくて、一生ホームレスで、それでも一円も盗まない生活をしたと。その高德のおかげで女に生まれたと。それで、そのときも一心に帰依して、それからずっと比丘をやっていました。4回目で今とうとうここまで来ましたと。

アングリマーラという999人殺した人がいるのだけれども、普通はキリスト教でもイスラームでもユダヤ教でも、地獄に墮ちたら助けられませんよ。仏はそれでも一つの理由で助け

てくれるわけです。地蔵菩薩様です。地蔵菩薩様となったら、これまた奥深い深い深い。どれだけの奥深さか分かりませんよ。私たちの頭は本当に猿とほとんど変わらないくらい浅知恵だから、これで全宇宙、全て分かると考えているから、大変な危険なわけです。これ以上の進化した文明社会が、この地球に何回もあって、何回も滅びたわけです。今、私たちが猿からこうなったわけではなく、その前に途中にいっぱい。龍樹菩薩様とはナーガールジュナ、「ジュナ」というのは、『ラーマーヤナ』というインドの最大の話があります。神同士が戦う、その弓を撃つ。その「ナーガ」というのは「龍」ということで、ナーガールジュナということなのです、龍樹菩薩様。そういうふうに、前の時代の大戦争、原爆戦争も、そこに書いてあります。

だから、今そういうことを分からなくても、ただこの一つ、仏法に触れる、『般若波羅蜜多心経』の「観自在」。それは「月輪をつくること」なのです。これで皆さんが、そういうふうに、そういう志があれば、修行しながら、ただアナパナ・サティ、これだけが涅槃に行ける方法です、という四つの関門をお釈迦様が教えて死んでいったわけです。その中の一番大切な法随観、ダンマヌパッサナー。これで全て『般若心経』が観えるようになっていきます。南伝では『般若心経』がないわけです。ただ行をするから、何をやっているのか分からない。北伝では『般若心経』という、どういうものであるか、題目でちゃんと観えるわけ。でも中身が観えない。だから「二つ合わさって初めてすごい法だ」ということが分かるわけです。それを今から 1200 年前、弘法大師様がこの日本に持ってきて「甚だ少なし」と。アナパナ、やはりアナパナと漢文（安般念〈安那般那念〉）で書いてある。結局この行をやる、する行者は「甚だ少なし」と。難しかったわけです。法を伝えることができなかった。

その行法が南伝に奇しくもそこにあって、なぜか私の旅は世界をぐるぐるぐるぐる回されて、今日、完全に成就したわけです。だから、これからの日本は大きく変わると思います。今まで魔がいたのですよ、ここに。どっかり動かなかった。法が入っていなかった。今度は、この家に法が入ったから、出ていかなければいけない。ということになったわけです。私の話はこの辺で。

【ご住職】

訳の分からない話だけれど（笑）、いかに心というものが大事か、形ではなく、心というものをしっかりと押さえて、励んでください。ありがとうございました。

【水源師】

どうも、訳の分からないような話で。それこそ、糸のようにつうつつながっています。この法の糸は切れません。

【行者さん】

先ほど「南伝」ということが出てきましたが？

【水源師】

結局、インドからスリランカ、スリランカからミャンマー、それからずっと中国に行ったのですけれども、1500年前までは非常に栄えて、その教えは消えました。というのは、比丘というのは227の戒を守らなければいけないわけなのです。非常に厳しくて、それも社会が、お布施お布施で、修行ばかりするようになっていたのですけれども、やはりなかなか法が伝わらなくて、ただ今、残っているのは、ミャンマーにだけなのです。スリランカの人もミャンマーに、修行に瞑想に行きます。お年はおいくつですか。

【行者さん】

もう77です。なかなか足腰もちょうど弱りまして。

【水源師】

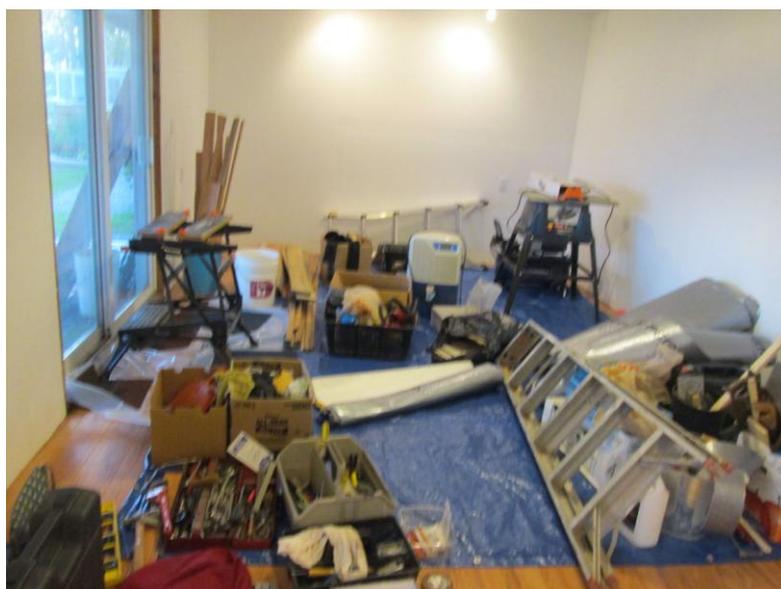
イヤー思っているだけなのですよ。私はこの歳で屋根拭きやりますよ。

【行者さん】

やる言うたら、またここでやらなきゃいけないから（笑）。

【水源師】

若返りますよ。私はもう「若返った」と言われています。この6カ月、土方から道路工事からどんどんやってやったら、もう明日、倒れるのではないかと、病気したくてもさせてくれないで、逆に「若返った」と言われます。や、倒れたら全部パーだからね。もう歯車のごとくやるしかないわけ。もう前へ進むだけ、後ろなし。背水の陣。



水源禅師の工事道具



水源禅師の工事中のクティ

【行者さん】

私も2日前はしんどいですねん。寝ていますねん。もう28日になったら、シャーンとしますねん。

【水源師】

そうですね、そうそうその気持ちを持ったら、20歳若くなりますよ。だから、60に帰ります(笑)。ミャンマーのジャングルの中に、おばあさんが住んでいるわけですね。72歳、肌つやは60歳、ぴんぴん歩く。何が好きかといったら、法話を聞くことが好きだと。それで、お寺参りが大好きですと。腰も曲がっていない。こういう法を心に入れたら、一生懸命、逆にやったら、全部アクが吹っ飛んでビューッと若返りますよ。それは年取る、年取る、私はなぜかもう倒れたくて、転がりたいと思うのだけれども、させてくれないわけ。風邪でも引いて、ぶっ倒れそうだけれど、やるしかないわけ。

【行者さん】

もう年だから辞めさせてもらいたいと思って、ここまで出るのだけれど、護摩焚きやれば元気なるから。

【水源師】

それ止めたならコロッと行きますよ、本当に。コロッと行ってもよいわけですよ、新しい体

すぐもらうから。でも、もったいない。もう少し行をされてがんばったら、もっと恵みが来ますよ。1歳延ばすごとに、それだけ高德だと言いますよ。早く死ねば、やはり何かに因縁か、もう1回命をもらう行をしなければいけないみたいです。ま、いろいろありますからね。すべて因縁ですから、こういうすばらしい因縁をもらっているのです、がんばって100でもピンピンと、本当に私、見たのですよ。年関係ないみたいです。そりゃあ年取りますけれども、いつでも中身は若いのですよ。

だから、私が760歳の方、50歳くらいの方。年は取っているけれど、本当にいるのですよ。心です。その行があるらしいけど。その行はミャンマーの方に行って、チベットのそちらの系統で、昔は全て密教だったわけです。それが消え去った。それが日本の方が分からなかったわけ。私が旅して、全て昔はスリランカも密教だったかな？今のこの南伝ではなく、全て密教だったわけ。ただ残ったのはチベットと日本のここだけ。チベットも私ずうっと全部、旅しました。やはり力がなくて、行者を出す力は、今はもうないと思う。あるのは日本だけなのです。物質とか経済的とか力ね。だから、ここでもう一ふんばり皆さんにやってもらって、弘法大師様の後継いでくださいませんか？（笑）

【ご住職】

行をした役行者とか、お大師様とか、宗祖みたいな人はおらんがな。もうどここの大僧正とかは皆つくられたもので、権力者の庇護によって、大きな寺にもなって、ヌクヌクと暮らしておるな。

【水源師】

でも、そういうお寺に座った次の人生は大変なことです。大変なことになりますよ。私はあるとき、南伝の王子様で、もう宮殿を投げて、お寺に寄進したおかげで、今度、仏縁ができて、国王の先生になったわけです。経典は読めるし、それで、次の世は地獄に堕ちなかったのがよかったくらいで、もうどん底のものすごい貧乏しました。そこで、ただ一つ救われたのが、自分の食べ物を聖なる行者に捧げたおかげで、次はまた仏縁ができた。

そういうふうに、一生懸命やっても、そこに上がってしまえば、次のことが大変だから、お釈迦様は王様にだけはなりたくなかったわけ。でも、皆さん王様になろう、社長になろうって（笑）。観ていないから、よいように見えるけれど、過去を観ていたら、もう手を付けないで逃げ出しますよ。小さい萱葺き屋根で少しのご飯と味噌と、それで法を、本を読めば、それほど幸せなことはないわけなのです。一切は無駄です。車持って、飛行機に乗って、何の意味もなし。本当にありません。ところが、それをよしと宣伝されるから、お釈迦様は「1100万おろうとも、我一人行かん」と。「惑わされてはいけません」と。

【ご住職】

もっと勉強しなさい。お釈迦様だって、何代も代わってライオンの世界に住んだり、いろいろしてやっと悟りを開かれたのだから。その間、何辺もあらゆる外道の世界に入って。

【水源師】

そうなのです。この「四つの法門」をちゃんと残していけるようになっている、それをやりさえすれば、そこまで行かなくても、預流果に行くか、その近くに行ったって、これは大変なことなのですよ。預流果と言えば、私が大地に指を付けるでしょう？ ちょっと土が乗るでしょう？ これと地球のこの大地の量とどちらが大きいですか？ この地球の大地でしょう？ 預流果にやれば、この因縁が全部消えるわけ。残るのはただこれだけ。この上に結局、サカタガミ（一來果）、アナガミ（不還果）、アラハト（阿羅漢）となるのだけれども。一番下でもそれくらいすごくなる。

【ご住職】

いくら財を持っていても、何しても、持っていかれへんで！

【水源師】

それも空想、空想、空想。本当、1円も持っていけません。

【ご住職】

心の徳だけ持っていけ。魂の幽玄しかないのだから。

【皆様】

今日はありがとうございました。



合宿後の不動尊護摩供の火

合宿中の質疑応答

世界中どんな人でも心は一緒

【水源師】

どうですか、今回の瞑想は？ どんな感じですか？ がんばって皆さん、こういう方々が集まって熱心にやれば、ものすごく進化しますね、年に1回でも。そういうことで。なぜかといったら、不思議なことに、会を増すごとにすばらしい方々が集まってくるのですね、こう言ったら失礼だけれど。凝り固まった人はなかなか進化しないで、何か行ってしまうのだけれども、こうオープンな人は集まって、オープンだから、ますますうまくみたい。ここはもう全てを受け入れる道場だから、宗教にも関係ない。というのは、仏は全宇宙のものであるでしょう？ それを一固定観念の一文化の中の、また一人の考えということは、あり得ないわけで、収めるということは。仏法はどこにいても、どの国でも、どんな文化でも、宇宙のどういうところでも、教えられるということなのですよ。

だから、お釈迦様は、あるときはライオンのような顔をして、人間こうでしょう？ そのときの人間は、ライオンのような牙を持っているわけ。弥勒菩薩が生まれる国は龍の国なのですよ。龍の国で生まれて、龍に木の下で悟りを開くわけです。宇宙には Insect みたいな、非常に高度な人間以上に発達した生命体があります。また、龍というか、トカゲみたいな、そういう爬虫類系の非常に高度に発達した生命体もあります。また、この人間よりもすばらしく美しく天女みたいな生命体もあります。結局、この地球には、人間でもフィリピンの山奥行くでしょう？ 4尺もないのですね。小さい人間たちが裸で暮らしている。北のロシア系いるでしょう？ 雲につくように、1メートル 80、90 がゴロゴロして、私は会社で働くのに、こうして見上げて、デカイ巨人ですよ。それでアフリカから来た人もごっつくて、クワーツと鼻はでかくて、全然顔は違うけれど、この地球でもね。

でも「心は一緒」です。大きい巨人みたいな方も、ごっついアフリカのグワーツとした人でも、その南方の小さい体の人でも、やはり一番好きなのは「慈悲」というか、優しい言葉でニコニコ話すのが大好きですね。ということで、ま、昨日みたいに皆さんのリクエストでまた法話がゆっくり始まったらよいのではないかな、と思うのだけれども。

弘法大師、龍樹菩薩、観音菩薩、宝塔、八大龍王

【参加者】

昨日の話で、お釈迦様を観られたということですがけれども、私は弘法大師様が好きなのですけれども、お大師様を観たいと思えば、観ることができるのでしょうか。

【水源師】

観ましたよ。

【参加者】

あ、そうですか。「どのような方」と言いますか、感じを受けられたのでしょうか。

【水源師】

私が弘法大師様を観たのは、こう光のように、暗い中から黄金の光のようにサーッと出てくるのですよ。そして笠かぶっているのですよ。杖を持っているのですよ。それで、金色に光るけれど、顔は観えない、真っ黒で。旅姿で出てきます。高野山に行ったら、その銅像があつてね、ほとんどそういう銅像で出てきましたけれども、いまだにそういう神々しく、この世にいて、助けているみたいですね、旅しているというのは。とにかく非常に帰依していたから、坐禅したときに、最初の方からもサーッと出てきて観せてくれました。「修行してください」ということで「応援します」ということで。

そして、私のお母さんはナーガールジュナ様、龍樹菩薩様。ちょうどお釈迦様をお迎えするときに、龍樹菩薩様が家の外でじーっとこうして座っているのですよ。それで、その後ろに弘法大師様がとても心配しながら、オロオロオロオロ歩いていたい。それで、西の方から太陽がサーッと上がるわけです。ちょうどそのときの家の裏庭の木が宝石のように、星いっぱい散りばめてパッパッパッとするわけですね。だから、西から太陽が上がるということで龍樹菩薩様。結局、ボロブドゥールに行って分かったのだけれども、龍樹菩薩様は、この世から西方、西の浄土、極楽のそちらの方に往かれたということが、今回、分かりました。それで西の方でずうっと坐って、また還ってくるのですね。偉い方はそこにとどまらずに、修行したらまた還ってきて、衆生を助けるために還ってくるわけ。

今日も観音様が出てきて、私の湖の道場に入りたくてジューッと立っているのです、立ち姿で。それはこういうすごい冠を付けて、ここに多分、阿弥陀様だと思います。こうちょうどチベット風な衣装をしていましたけれどね。立って待っていました。すごく王冠というか、宝石というか、オーツという感じで。そして、もう一つその後に『法華経』で有名な地中から宝塔が上がってきたでしょう？ あれをサーッと観せてくれるわけ。だから迷っていたのですよ、「どうしようかな、阿弥陀様を自分で掘って、何とかあそこに飾ろうかな」と思ったけれど、やはり「観音様がお入りになりたい」ということでと、それから宝塔ですか？ 宝の五重塔みたいな塔ですね。それをそこに納めなければいけないみたいです。それがスーッと入るのを観ましたから。というふうな、やはりお告げですね、

最後に「ここで浄化してくださいまして、ありがとうございました」という、この氏神様が非常に喜んでくれて、何か苦しんでいたみたいです。ここで私たちが瞑想することによって、浄化したみたいです。ということは、「この日本全国を今、浄化した」みたいです。そういうビジョンを観せてくれました。

【参加者】

氏神様というのは、八大龍王様ですか。

【水源師】

そうでしょうね、だから、お神酒を上げたら、すぐにプーンとお酒の匂いがして、飲まれたみたいですよ。

【参加者】

初日、何かすごい苦しくて、何かこうグワーッという感じで、この辺から、えも言われぬ気持ち悪い感じだったのですけれども、何か抜けていったような。初日のとき、そんな感じがありましたね。

【水源師】

何かここに悪い呪いがかかっていたみたいで、それで私たちが来て、取ってあげた感じですね。

【参加者】

「瞑想」することによって浄化されるのですか。

【水源師】

はい、そうです。これは「宇宙の最高の最も聖なること」であるから。

【参加者】

どなたがやってもよいのですか。

【水源師】

私たちみたいに、一緒に法を持った方がいて、一緒にやれば。ただ坐ってもならないです。

【参加者】

「先生がやられるから」ということだと思います（笑）。

【水源師】

だから呼ばれたわけですね。あそこで見せて、このことを。ここはやはり日本文明が発達した大阪、京都、奈良を一望に見渡せるということが、大阪に住んで初めてですよ、これが分かったのは。知らなかったです。ここにもしよっちゅう来たけれども。ただ遊園地で遊んで帰るくらいで（笑）という、ものすごく聖なる場所だったのに、今でも守られているけれども、いろいろなことが起こったのか知らないけれども、やはり浄化してほしかったみたいですね。

だから、前はきれいな水が出ていたけれども、水が汚く濁っているということは、何かあるわけなのですよ。いじったらいけないところをいじって。私の生まれ故郷の町でも、もうそこは町一番の清い水が出て、皆、水を汲みに来て飲みに行くわけですよ、お茶の水とか。

それで、何かいじったら水が止まったわけ。びっくりしてしまって、何かお祈りしてから、また出始めた。そう簡単にいじったらダメみたいです。

【参加者】

小さな池がありますけれども、弘法大師様がいらしたときには、きれいに流れていて、池自体がきれいだったそうです。



大阪・京都・奈良を一望できる本堂前展望所

いろいろな目に見えない生命体

【水源師】

カナダでも井戸があって、水が飲めなくて苦しんでいたわけ。汚れていたか何かで。夢にお告げが出てきて、こういう小さい小人さんみたいなのがいるらしい、本当に。それで、出てきて「井戸の周りに花を植えてください」と。そして花を植えたわけ。そうしたら、その水が清まって、きれいに今度は飲めるようになった。一寸法師みたいな小人さんは、空想物語でしょう？ ちゃんといるみたいです。その国もあるし、心のきれいな人間だけは見せてくれるけれども、そうでなければ、もちろん隠れて見えないし、どこにあるのかも分からない

けれども、ちゃんと私たち人間界と一緒に暮らしているみたいですよ。

それから『ファンダジア』で、きれいな小さい天女みたいなのが飛ぶでしょう？ スーツとね。そういうふうには、はっきり見えないけれども、私の湖のところである日、木を見ていたのですよ。葉っぱがもう落ちてしまっていたけれども、木の枝に全部、鈴なりに、こういうふうな光が出るのですよ、ファー、ファー、ファー、ファーって。あっちもこっちもいっぱい。「あーこれはあの方たちだなー」と。水玉ではなく、これくらいの光で。玉のようにあっちこっちサッサッサッと。遠いから透明な光みたいに、美しい光を出していました。

そこの近くの野原は何十兆歩だから、一面、牧場みたいに広大なところなのですよね。6月の中頃に夜歩けば、星が全部光るように蛍の海。それはそれはきれいですよ、ダーッと全て光り始めるから。そこら辺の水がきれいだということ。でも、蛍さんは見えるけれども、そういうところを見ようとしても、滅多に出会えないでしょう？ もう海なのですよ、ダーッと一面、夜空の星のように、星と地上が一体。という幻想的なこともあります。それは時期さえよければ見えるみたいだけれども、毎年毎年、見えるかどうか分からないけれども、去年、その前も見て、これ2回目見て、見られるかもしれないなという感じですね。そういう話は聞いたこともないし、「見えるよ」ということも聞いたこともないし、30何年住んで、初めて私が見てワッと。そこに住んでも見えないと。

ということがいっぱいありますね。だから、心を純化して深く帰依すれば、ちゃんと出てくるのですよ。それで、あるマレーシアの方でしたね、「どうしてもお釈迦様のお姿1回、見たい、見たい」と。熱心に拝んでインドのブツダガヤだったか、あそこに行って、一生懸命、瞑想していたみたいです。そうしたら涙がほろほろ出たみたい。あの見世物ではないわけですよ、そう観ることによって確信を得るわけです。確かその人は歯医者さんだったと思う。

今日も突然、最後の方でサーッと映像が出てくるわけですよ。ま、「お知らせ」というか、「ありがとう」というか、この権化様を通して分かるから。それで映像で二つ、なるほどと。私もどういう仏像を彫ろうかなと思っていたのだけれども、今度そういうのを掘るのは10年くらいかかるかな、それ残して死んでいくのかな？ そんな感じです。材木はいっぱいあるからね、材木はいっぱいあるから。今、材木といえば、よい原木は、もうほとんど手に入らないですね。だから、今はもう寝かせて、何十年分の木材があるからね、もうこの部屋半分くらいの、こういうでっかい大木いっぱい切って寝かせている。もう幌（ほろ）をかぶせて、ちょっと上げて、だから、その中でよいものは生き残れるようにして。

やはりそれをまた生かすわけです。木を切って燃やせば、それは殺すことになるけれども、ま、それでお祭りとかで、そういうことで供養して、またそこで生きるのだけれども、そういうふうに切って、大事にして、そこからまたすばらしいものをつくり出せば、木が生きるわけですよ。下手に木を切ってよいものを切ったら、悪いことが起きるわけ。また、そういうふうに善い心でやれば、善いことが起きるわけ。

これはカンボジアのお話だけれど、このお坊さんは、いつもその国の王様と旅するわけ。アドバイザー、観えるから。今のカンボジアのお父さん、死んでしまったけれど、その人どこに行っても、いつも旅行するわけ。どんな会議でも一緒に出席して、じーっと聞いているわけ。その人のお寺は王宮のお寺だから、そういう瞑想するときには、宮殿から王子様が来

て出席して、まず踊りをやるのです。きれいな踊り。そこから今度、お坊さんがちょっとお話しして説法して、その後、ピンダパーダ（托鉢）で食事をもらうのだけれども、そのときお坊さんが、私にこう話してくれました。

ある大金持ちが突然、財産を失って、大変な災難に遭って、坊さんに相談に来たらしい。「じゃあ行ってみましょう」と言ったら、「あなた、これをどこから手に入れましたか?」と。「これはどここの家具商から買ったものです」という。「じゃあ、これはあなたにとって災いになるから、私のお寺に引き取りましょう」と。

私、見ましたけれど、何か飾りみたいな掘ったやつで。そういうふうにも木にも善い木があるし、下手な木を使えば、癌になるとか。だから、何でもよいわけではないみたいです。今はもうプラスチックで、こうなっていますけれどもね。やはり私たちには分からないような、そういう世界があるわけです。ここも何か悪い因縁が起こったのか、何かこの大地に、それで私たちが来て、こうして瞑想したことによって、何かスーッと晴れたような気がします。

【参加者】

さっきの小人の話と関係あるのかもしれませんが、普段、家とかにいと、黒い影みたいなものが、視界のここら辺をスッと行ったり、スッとよぎったような気がするみたいなことが、時たまあって、そういう精霊とか、そういうものなのか。

【水源師】

そういうものもあります。変な話になりますけれども、大体、黒い影の場合は、サッサーと動く場合は、大体お亡くなりになった霊なのです。供養してあげなくてはいけない。苦しんでいるわけ。あなたには見えますが、とてもマーシャルアーツ（武術）といって心を鍛えていますから、じゃなければ、精神界で鍛えている人も見えます。一般の人は見えないのです。非常に心が研ぎ澄まされていますからね。サッサーと黒い影みたいなものがあるのです。それがそうなのです。

そういうときは『般若心経』でも『お経』でもあげてあげたら大丈夫。線香でも供養するとか。そうでなければ、南方では「オム・マニ・ペメ・フム（Om Mani Padme Hum）」（六字大明呪）といって水瓶に手を抑えて、それをバン、バン、バン、バンとやるわけです。そして線香をパッパッと燃やすわけ。それが台湾の風習。浮かばれない霊がいっぱいおりますから。

【参加者】

それは自分のご先祖様とかではなくて？

【水源師】

そう、そう、そういっぱい。というのは、今はお経を読んで「ハイ、おしまい」でしょう？それは日本だけではなくて、全世界がそうなのです。経典を読んだだけでは浮かばれないのです。やはり業力を持った人がやれば、浮かばれます。業力を持つには、やはり修行しなければいけない。瞑想とかそういうこと。瞑想が最高だけれども、皆さんよくがんばって瞑想

しましたけれど、瞑想ということは、なかなかできないのですよ。嫌がって逃げちゃうの。それくらい苦しいもの。そこで楽しくやっているという人は、すごくすばらしい神通を持ち始める。そういう方が経典を読むのと、ただ学校で本を読んで牧師さんになった方とは、全然違うわけ。

だから、トロントなんか幽霊（餓鬼）が、うじゃうじゃ歩いているよ。地下鉄とか町の中。それで、取りつくのですよ。若い人たちは信仰心がもうないからね。「そんなものない！」と、どんどん入ってくる。それで、変な行動するわけ。本人は「なぜそうしたか」、分からないわけ。取りつかれるということも、そういう考えもないわけ。だから、昔だったら、取りつかれていると、お祓いしてとるとか、それは本当のこと。本当、プーッと出てきます、雲みたいに。本当に出てきます。「それは迷信だ、何だ」と言って、もう全部そういう考えだから、非常に精神障害を起こしている人が、たくさんトロントでいます。

というのは、食べ物はある、心配ないでしょう？ 仕事がなくとも何とかなる、全部。だから、実際のところ、神助けはいらないわけなのです。神助けのときは、本当に誰も助けてくれなくて、教会に行くでしょう？ でも、教会では、お坊さんはそういう昔の行をやっていないものだから、（キリスト教の世界ですけれど）お寺の方は知りませんが。そして、全然、治らないわけです。だから、ものすごく、もがき苦しんでいる人がいっぱいいます。

というのは、霊が体にあちこち入っているのだけれども、そういうことを言ったら、私がおかしく思われるし、本人たちはどうもおかしい、そのとおりのみただけけれども、私は言わない、逆に変なことになるから。だから、若い子が特に取りつかれています。

【参加者】

取りつく霊の方も、やはり成仏したくて取りつくのですか。

【水源師】

成仏も何も、そういうことが分からないのだもの、普通のあの社会では。天国か地獄だけだから。

【参加者】

生前にそういう教えにしか触れていなかったの、行き場を失っているということですか。

【水源師】

そうです。どこにも行けないという、そのうちどこかに墮ちるわけ。ま、人間界に上がることは、まず無理だけれど。

【参加者】

やはり、あまり善くない霊が、もうウジャウジャいるのが、今のこの世の中？

【水源師】

になってきていますね。どんどんというのは結局、自分の知り合いが全部、死んでいく、それから町も消え去る、新しいビルディングがどんどん建つでしょう？ 私が最初にいたトロントと、今はもう夢物語で、もうほとんど影も形もなくなっている。だから、そういうところで死んだ方は、どこにも行けないわけ。天国にも行けないけれども、地獄にも行けないと。そんなに悪いことをしていないわけ。かといって、天国に行く力はないわけ。だから、ウヨウヨウヨウヨしているわけ。それで、ウヨウヨウヨウヨしていったら、だんだん心が暗くなって、いたずらとか、悪いことをしているわけ。だんだん暗くなっていくわけ。

それを「魔」とか「悪霊」とか言うわけ。だから家に取りついて、古い家を買うでしょう？ そうしたら、変なことがいっぱい起こるわけ。だから、トロント大学の宗教学の先生は、そういう手法を研究して知っているみたい。それで、そこに行ってお祓いしたら、すごいお金取るみたいです（笑）。私は2回やったけど、取らないのだけど。そして実入りがよいから、教授の仕事辞めて、そればかりやっていると（笑）。いや、これ本当の話よ。それほど需要があるわけです。お金高いですよ。安くないですよ。

この日本でも本物は高いですよ。なぜ高いかと言ったら、場所を借りるのに場所代がいるのですって。ただどこでもできないと。それで、自分も食べなければいけないと。そういうことで、金儲けよりも経費もかかるし、生きなければいけないと。

ところが、トロントの大学の教授を辞めるくらい実入りがよいから、そっちに一生懸命やっているって。でも、日本ではそんな馬鹿な、キリスト教の大学の先生が辞めてとか、お祓いとか、ところが現実はそのようなのですよ。

【参加者】

同じ波長だから、取りつかれてしまうのですか。

【水源師】

違う、違う。信仰心がなくて、ただ暮らしていたら、家の中が空っぽでしょう？ スーッと入っちゃう。「あーこれはよい体だ」って。ところが、こう精神がしっかりしていたら、それが分かるわけ、「ワー、もがき苦しんでおかしい」と、信仰心を求めるけれども。そういうものがなくなったら、「ワー、こりゃあいいや」、夜遊んで、若い人は何だかジャンジャン音楽聞いたり、入れ墨バンバカ入れたりとか。何もなければダーッと暴走してみたり。それはボンボコ入ってきますよ。特に挙げ句の果てに麻薬やったら、もう心がそこにはないものだから、「あ、これはよい体だ」と、ポコッと入っちゃって、取られてしまう。そのところ、誰も分からないわけ。だって、精神科のお医者さん、宗教を勉強する時間ないじゃないですか？

でも、最先端にいる人たちが、私のところに来るわけ。現場を見てて、どうにもならないから、「おかしい」と。科学では解決できないし、薬だけ与えるだけなのです。その薬が切れたら、もう自爆、本当に自殺してしまう。それが今の現状みたいです。だから、精神を求めるあなた方みたいになればよいけれども、そこまで落ち込んだら、座禅なんて遠い遠い夢物語。まず教会に行くことだって難しいのに。

それで、今、一番やはり強烈なのは、シャーマンの北インディアンのパオパオというチームに入れて、お祈りしながら、サウナみたいなものだけでも、土の上で儀式があつて、入り方もあるわけですよ。そこでやったら相当取れるみたい。ちょっと取りついた方はすぐ取れるし、病気もすぐ治ってしまうみたい。病気というのは、どんなに「ばい菌」がいても、ならないのですよ。ちょうど条件が合つて、種が落ちるような条件でなければ、どんなきつい「ばい菌」でも取りつかれないわけ。結局、そういうウジウジとした暗い中では、腐つて発生するけれども、カラッとした太陽の下では発生しないわけ。だから、精神もカラッとするように、こうして瞑想して明るくしていたら、落ちないわけ。

ところが、こう言ったら失礼だけれども、精神界を求める人で非常な大変な病気したら、これはおかしいとなるわけ。これはしてないということになる。というのは、カラッと太陽を当てるものだから、なかなかそういう状態に陥ることがないわけ。でも、一般の人はそういうことを知らないでしょう？ もう勉強勉強とか働いて、影があるのかも、そういうことを否定されてしまっているから。

だから、病気が発生するには条件がいるわけです。そういうネガティブ・エナジー、この頃は言いますでしょう？ 悪い人がいてね、それをボンボン発射するわけ、面白そうに。やられた方は分からない、ただ気持ち悪いとか。種を植え付けていくわけよ、面白そうに。小っちゃい子どもが泥んこ付けて遊ぶように。いや、本当（笑）。この人たちは分からないから。「あー付いた、付いた」、「あー、面白い」。

ところが、大変なことになるでしょう？ 自分の因果ということを考えないから。仏法はそんなことをしたら、大変なことになるから、因果関係でね。そういうことも全部否定してしまっているから、もう世の中行くと、本当におかしくなっているわけ。「ないない尽くし」で。「何にもないよ、何してもいいよ」って、そんな。

【参加者】

そういう悪さするものを最小限にする方法は？

【水源師】

方法といたつて、だから、精神状態をカーッと強くしたら、その力で私には入らないし、パーッと逃げて嫌がるよね。

【参加者】

各々が浄化するしかないということですか。

【水源師】

ま、私たちが、こう瞑想すれば、みんな光を持っていますからね。そういうふうなのに、その光を当てられるから。それで、そういうボンボン投げる人も、光を見たときには感じるはず、何かおかしいと。子どもが泥んこ遊びしているうちに、そのうちやめるでしょう？ そんな感じになるのではないですか？

だから、哲学仏教をやっている場合は、一切そういうこと説明もなし。ただ、精神界みたいなことばかり並べるでしょう？ それで、一切それに触れないでしょう？ そういうことで。だから、現実から離れた、それこそ空想物語で教えているわけ。現実には「今の社会では、そういうことを言うのはおかしい」というところまで、おかしくなってしまうわけ。

だから、ミャンマーでは、仏教のほかに、そういう「まじない師」がいるわけ。二流、二つ。それで、自分で浄化したいというところが「お寺」で、そこで修行すると。何か本当に困ったことがあったら、「そこ」に行くわけ。そうして、お祈りしてお祓いしてしまうわけ。だから、ミャンマーでは伊勢神宮みたいなポッパとか言ったかな？ 山があつてね、こう高い山。そこは氏神の山で、そこに行けば、悪いことも取り祓えて願いがきくと。それで、一番上の方は、仏陀を飾っているけれどもね。ま、そこはそういうところなのですよ。だから、突然、行者が出てきて、こう人を治しているとか、そういう人が飾られているみたい。それはどこの世界でもあります。

人間はお医者さんに言って、薬もらうのが大好きみたいで。困ったことがあったら、そういうところに行って治してもらったら、「アーよかった」と、すぐ取れてしまうから。お医者さんが治してくれないけれど、この人は治しちゃった。

それで、仏教をやる場合は、そういう「取る」こともあるけれど、ほとんどそれはやめて、まず修行の方向でやらせていくから、心の中から。そうでなければ、「アー治った」と、もうポーンと遊ぶわけよ。病気したら、また帰ってくるわけよ。そうしたら、もう嫌になって「自分で治しなさい」ってなるでしょう？ 心を浄化して、次の世のことが大切だからね。今ここでは、やっても水の泡でしょう？ 1回、2回やってやっても、まただったらもうお手上げ、「いや、もうやめた」と。

ということが現状です。だから「自分の心」さえ、どんどん修行して、法を得るような行をしていけば、ま、後は全く問題ない。今ここで死んでも問題ない。必ずや、そういう時空に生まれ変わるから。何も悪いことするわけではないし、人様に迷惑かけているわけでもないし、自分で仕事して食べているでしょう？ 一体これ以上、何を要求しますか？ それにプラス、もし人を助けるなら、これはすごいことだけれど。まず自分で、そういうふうな法を求める方向に行っていけば、まず将来それが結局、人に善いことになりますから。

【参加者】

それをやっていけば、自分の家族もそうなりますか。

【水源師】

なりますね。いくら反対しても、やはり絶対違うと言っても、幸せは一つも来ないから。それで、そういう人を家族が周りを助けたら、穏やかに善いことが起こるから。それで、やる・やらないは、本人の自覚だからね。無理に引っ張ることはできません。

【参加者】

周りで見ていると、子どもとかが苦しんでいたら、放っておいてよいのか、無理に連れて

いくこともできないし、みたいな。

【水源師】

そうですね、ま、「自分の心」で「慈悲の心」が発生していきますから、法が段々進化していけば。「何だかんだ」と言っても手伝うし、手伝わなければ、気持ち悪くなるし、とかね。お母さんのことを聞くとか、そうなっています。だから、あまり心配しなくてもよい。

それで、聞かない子は仕方ない。それもまたカルマでね、もったいない、ダイヤモンドをドブに投げるみたいなのをしているからね。そういう世の中だから仕方ないですよ。

お釈迦様でも、みんな救いたいけれども、でもこれくらいなのよ、これくらい難しいわけ。トロントでは、そういう人は成仏しない。成仏の仏という言葉もないのだから。本当に、どうしましょう？（笑）「成仏ってなんですか？」って聞かれるよ。説明できない。

【参加者】

「肉体があるうちに修行する」ということが、とても大事だということですか。

【水源師】

そうですね、そうでなければ、そういう仏縁を造っていくと。だから、白人は今、お寺が用意したり、仏教の本を読んだり、目を大きく広げています。ヨーロッパと北アメリカ。なぜかという、ヨーロッパと北アメリカは豊かな国なのです。だから、その余裕があるけれど、そういう余裕がないところでは、もう必死になって教会に通うわけですよ。

神様から「助けてください」ということで、熱心に。でも「そういう神はいない」わけ。そういうふうにならされたから、そこに行くしかないわけ。でも、やはり南米でも隠れてやったりやっているみたい。どうしても聞きたいから。イタリアでも隠れてやっているみたい。いや、本当に。効かないから。

【参加者】

隠れて仏教ということですか。

【水源師】

いや、まじない。仏教をやれば大したものですよ（笑）。まじないの方が手っ取り早いしね。

【参加者】

キリスト教では、おまじないが禁止されているから？

【水源師】

もちろん、そういうおまじないというのは「ウィッチ・ハント」（魔女狩り）で殺されたでしょう？ 今はそこまでしないけれども。だから、もう隠れ隠れでやっているみたい。また効くみたい。効くといっても、お金も払うし、またその代価もあるし、またツケが来るわけな

のですよ。

【参加者】

そういう人たちは、心を浄化する仏教まで行き当たっていない、ということですか。

【水源師】

この地球で、仏教のお釈迦様のことを耳にするだけでも難しいの。名前を聞けるだけでも、聞ける、この日本でもこうでしょう？ でも、そういう人に比べたら、もう天界に近いところに私たちはいるわけ。それで、自由自在に仏教の経典も読めるし、本当に仏教に対して豊かな国なわけですね。日本、韓国、台湾。中国は早々にあるのだけれども、そういうカンボジア、ミャンマーといったら、ティピタカ（三蔵）だけで、それ以外はほとんどないし、ここは何でも経典はあるけれど、それが正しいかどうかということは、こういう瞑想によって分かるのだけれども、この瞑想しないで本をいっぱいでも、これは宝の持ち腐れで、また善いか悪いかを選別できないから、全部入れたら、また頭がおかしくなります。だから、何でも本当になったら、頭がクルクルしてしまいます。

だから、いかに「法に触れる」ということは「有り難し」。「有り難う」「本当に有り難し」。「本当に有り難う」がこれ。人に感謝して「ありがとう」ではなく、これが本当の「有り難う御座居ます」。これを「一大事」という。「一大事」と。今この全世界がインターネットで「全て自由だ、何とか」と言っても、それでもこれくらいよ。

だから、私が日本に生まれずに、ミャンマーに生まれても大成功よ、いくら貧乏でも。それもちゃんと修行道場の近くで生まれたらね。ミャンマーでも修行を本当にする人は少ないのですよ。しますよ、でも時間がないから、1年に1カ月お寺に入って籠もって、ずうっと瞑想すると。まだ日本よりはよいわけ。

その昔、パオのモーラミヤインの本院に、そこを訪ねていったときに、これもまた奇跡的に教えられて「そこに行けば、お釈迦様の時代の行法をそこで受けられるよ。行ってみなさい」と言われた。「本当かな？」ということで行ってみて、それをたまたまバックパッカーで、退職したって、お金がどっさり入るわけではないし、私はバックパッカーでクルクル回るくらい、一日百円の旅で。そして、ギウギウ詰め小さいトラックに乗って行って降りたら、すぐミャンマーの人が降りて「あなた、あそこの道場に入る前に、ここで食べなければいけないですよ」と。英語少しできるのですよ。私におごってくれるのですよ。

今度、馬車も用意して、ずうっと行くまで、ずうっと遠いわけなのです。そして、とても親切にしてくれて、案内してくれて、自分の弟はヤンゴンで、お坊さんで人のために説法して、修行してベッド一つ、下はコンクリートで何もなくて、ひっそりと貧しくやっていますと。その人が案内してくれて、私がすごい行に達したものだから、ものすごくうれしそうにして、福をもらおうということなわけ。今度、尋ねていったとき、私が言わないのに、もうずうっと出てきて頭下げて。「アラー、あなたここに？」、「会いに来ました」と。

というふうに、彼にしては「すばらしい縁をもらった」ということになるわけ。だから、ミャンマーでは、私は伝説の人物なのです。外国から来てサーッと行って、法を持っていつ

たということで。ま、日本ではインターネットで、私の法話を出すぐらいだけれど。法というのは、なかなか出遇えないみたいですよ。というのは、経典に書かれている法がいっぱいありますけれども、それをかみ砕いて、実際の体験上というのは、瞑想して初めて本人が読まなければダメなのです。私がいくらあなたにこう説明したって、分かるわけないわけ。

まず瞑想させて、その力をつけさせなければダメ。そして「その本はこうですよ」ということで初めて分かるわけ。それをなしにして、ただ「詰め込み主義」で経典を丸暗記させても、それは無駄なこと。だから、ミャンマーとか、スリランカとか、タイとか、カンボジアでは、朝から晩まで小さい頃は、経典を勉強させますけれども、それでもよいわけ、ジャングルから出て学校に行けないからね。字を覚えるから、読み書きを覚えるから、暗誦するから、頭がよいわけ。学校に行けないのですよ。

だから、全部お寺で引き取って、暗唱させて、それは悪いことではないから。でも、ただ瞑想はできない。「なぜ瞑想させないのですか?」、「瞑想ばかりして仕事してくれない」って(笑)。だから「瞑想できる」ということは、これほどすばらしいことなのです。お坊さんでもできないのですよ。中国の超有名なナンバーワンのお寺でも「まず4年は働いてもらいます」と。「働いた後で5年目から瞑想をしてもよろしい」と。「まずお寺を直して仕事をし、まず貯金してください、その後、引き出してください」と。そうさせませんよ。

だから、こうして5分でも10分でも、こういう手法で瞑想できるということは、これは北伝の醍醐味で、そうでなければ、南伝では、もうそこで袈裟を着て1カ月、3カ月いて、また袈裟を落としてという、それが現状だから。

そうでなければ、ヨギといってヨギニンといって、白い服を着て、じっと十戒守って、そこに座ると、八戒か守って。それでまた出ると。そのときは、私みたいな比丘は、ちゃんとした御殿みたいなクティに入るけれども、そういうヨギニンは外で寝るのですよ。蚊がボンボン、それでゴロ寝で皆、大金持ちだろうが、何だろうが関係なし。でも、ほとんど比丘で6年はもたないって。6年過ぎて比丘の衣着けて生活したら、これはすごい幸運だというわけ。だから、10年近くなったら、ほとんどパラパラになる。それ以外は還俗してしまう。227の戒を持って、ずうっと生活していくと言ったら、大変なことなのです。

だから、カンボジアの、この若いお坊さんがサガインに行って勉強して、4年かそこらでミャンマー語ペラペラなのです。それでモーラマインに行ったけど、「あー行きました。私は1カ月か2カ月、修行したけれど、もう全然進まないの、経典を勉強のマンダレーで、そこでずうっと修行しています」と、瞑想は難しいのです。そう簡単にできないわけ。そういうふうな立派なお坊さんで、この人は王族の宮殿のお寺もらって、そこで若い子を教えているわけなのです。

だから、私がまたそこと関係を持てば、ちょっとした建物を修理して、すぐできるのだけれども、じゃあもうあちこちでしょう？ できないでしょう？ 前のその住職が、金持ちの女性と結婚したのだから。それで、そのおかげで誰も寄進しなくなって、このお寺が潰れそうになったの。彼がその後、来て、一生懸命こういう経典にいうような生活するのを見て、それでだんだんまた寄進が集まってきて、今、盛り返しているって。そういうふうな厳しい目で見られるから、やっていることが全て逐一、見るからね。それこそ清廉潔白で、もう朝

から晩まで働かなければいけないわけ。

だから、みんな体格のよい格闘家みたいな体、せざるを得ないわけ、私だってもう一人でがんばるからね。筋肉モリモリにならざるを得ないわけ。だから、そういうふうなジムに通って、という贅沢はできないわけですよ。その時間あったら、もう土を掘って、掘り返して石コロコロ回してと。次、何かありますか。

【参加者】

夜、坐っているときなのですけど、1回は必ずパチッと音がするのですよ、家で。それは一体？

【水源師】

何回くらいしますか？ 1回パーンとこれくらいですか。

【参加者】

家が古いから響くのか。

【水源師】

いや、そうではないです。私たちには聞こえないから、何かの「知らせ」というか、霊が守ってくれるとか、そんな感じです。私もあそこでぐうーっと瞑想していたら、天界の小鳥の泣き声が聞こえるわけ。チュ、チュ、チュ、チュ、チュと聞こえます、耳を澄ませばね。非常に「アー、天界の鳥さんの声だ」と。

【参加者】

鳴き声というか、(地上の鳥と)全然、違われるのですか。

【水源師】

地上のよりも非常に純化された音で、似ているけれども違います。聞けば分かるけれども(笑)、そこなのです。説明しろって、瞑想も説明しろ、「第八禪定はどうですか?」、「第一禪定はどうですか?」って、どうして説明できますか? だから、禪定に入る教え方は教えますから、そうしたら、自分でリンゴかじったら分かるでしょう? そこなのです。「どういう音ですか?」って、それは興味本位で、修行したら自分で耳があるから聞けるわけ。

【参加者】

何かキーンとまでは言わないけれど、何か高一いところで、言葉では言い表せないけれど、キーンと聞こえるのは?

【水源師】

あれは鐘の音の方。

オーブと霊魂

【参加者】

霊光とか写真とかに映りますが、あれは何ですか。

【水源師】

あれは浮かべられない方。だから、浮かべられるように供養してあげなければいけない。写真まで出るわけです。それを面白がって放っとくけれども、やはり供養してあげなければいけない。浮かべられるように。

【参加者】

何かこう、丸いのが光に。

【水源師】

あ、それはオーブ。私が言うのは霊魂、幽霊が写真にパーッと。オーブはいっぱいあちこちにあります。私も写真を撮ったらよくオーブが出てきます。それはちょっと聖なる方だと思います。

【参加者】

この間、法隆寺で撮ったら、いっぱい映っていました。

【水源師】

ああ、そうそうそう、そういうふうに。私の湖の瞑想道場で写真を撮ったら、金色のオーブなのです。金色とか、それから緑のオーブ。これは滅多に見ることができない。色がついたきれいなオーブになると。普通は白っぽいものだけれど、金色、黄金の色とか、エメラルドグリーンみたいな。

あるとき、カナダにすばらしく、捨てられた動物を助ける方がいるわけ。馬さんとか犬とか猫とか、そこの馬小屋で全部捨てられているのを全部自分で。馬も捨てちゃう、やせ細って。自分のお金でやって、それで写真を撮ったら、小さい光があるわけ、小さい光。それで拡大したら、それが虫さんみたいに飛んでいるわけ。ニンフ（精霊、妖精）ではないけれども、目では見えないけれども、虫ではないのですよ。拡大していったら、これ、本当に光の中にそれがいるわけ。だから、その写真で撮ったら、私たちには光だけ。それが空中で見たら全然見えないわけ。でも、これくらいの大きさで、その中をずうっと見たら、虫さんみたいに羽を付けて飛んでいるわけ。カメラだから見えるわけ。

私たちはこのセンサー使って 40 ファクターといわれていますよ。でも、この時空には、もう 1100 万のファクターがあるわけです。いろいろな宇宙船から何から、ほとんど見えないわけ。私たちのこの目を通してとか、耳を通してとか、触るとか。でも、カメラは非常に発達しているから、そういう現象をいっぱい見始めています。だから、もはやちょっと 10 年、20

年前の哲学理論では、一般の人に対して、もう通用しないわけです。文献的な研究をされる方は、その本の中だからね。でも、現実はまだ高速、非常に速いスピードで動いているから、勉強したものが、一般の社会と合わなければ、一般の若い人は見ないでしょう？

だから、ほとんどの今の若い人は教会に行かないのですよ。だから、寄進がなくて、教会が潰れ始めているわけ。ヨーロッパでも、全世界でそれが起こり始めている、特に若い人は。というのは、写真の現象を誰も説明してくれないから。昔みたいに「それは読むな」、それじゃもう通用しなくなっているわけ。今度はそういうふうに通じないから、社会が今、荒れ始めているわけ。今度、全てそういうものは否定して、自分に全てよいことづくめばかり、「悪いことしてもいいんだよ、盗んでもいいんだよ。それは過去のことで、それは過ぎたこと、これからやればよい」と。それでまた盗むと。「あ、それも過去だ」と。納得いかして、ドンドコドコやってしまうわけ。

それで「神は無限大にあなたを愛して、無限大に一切の罪を解き放つ」と。そうしたら、カルマも何もないわけだ。だから「何ぼでも悪いことをしてもオッケー、これは私の罪にならない、神様が全部取ってくれるから」と。挙げ句の果ては「自分のやることは全て神様のやることだから何してもよい」と（笑）。いや、本当に、本当ですよ！それが50、60の大人がそうするのよ。だから、そこら盗んでも何でも「あ、これは神様がしたことだから」って。



韓国の寂鏡禅師と水源禅師
(寂鏡禅師の頭上にオーブ、水源禅師の頭上に光)



カナダのサンダーマウンテンの儀式にて
(たくさんのオーブが写っている)

罪悪感がなくなっている

【参加者】

何をやっても、罪悪感がない方が多い気がします。

【水源師】

そうです。ということは、罪悪感にもう立ち向かえなくなるわけ。だから「自分がやっていることは、神がつくったから、神がやっていることです」と。じゃあ、もう商売も何もできるわけないわけ。だから、こっちの方は仏法があるからね。中国にしる、韓国にしる、それから、台湾にしる、日本にしる、中国大陸ね。やはり仏教があるから、そこまで行かないわけ。インドの場合は、これがまた面白いのですよ。ヒンズー教で神があって、仏教はほとんど小さいからね。でも「カルマ」があるわけね、「因縁」。だから、ちょうど頭がグチャグチャになっている感じ。まあまあ平気で何ぼでも嘘をつく(笑)。それは嘘ではないわけ。神様がやらせているからと、拝めばまた消えるからって。でも、カルマがあるでしょう？そこで、もがき苦しむわけ。このカルマをとってごらん。カナダみたいに「私のすることは、神様のすることだから、何をしてもよい」となるわけ。盗んでもオッケーって。罪悪感ゼロ。

もうそうなれば社会崩壊、モラル。やはりそれは法律があって、罰せられるからね。もうそのストレスか、それやっているわけ。法律に触れるか触れないか、法律でオッケーだったら、何でもよいわけ。法律というのは、やはりそういう「皆さんの道徳を守る」という上に立っての法律であって、全てそういうふうにはできていないわけ。抜け穴がボチボチといっぱいあるわけ。「あーこれ穴あいている、ここから入って盗んでこよう」と。今の金融社会では、こればかりやっているわけ。それで、一般の人がツケを払わなければいけないわけ。若い子に、なぜ「そういう乱暴な、物を壊したり、そういうのをやめなさい」と言うかといったら、電柱の電気が壊したら、誰が払いますか？ 一般の方でしょう？ 経済がそれだけ負担がかかるわけ。日本みたいに外にコーラでも何でも売っているでしょう？ お酒でも。「イヤーこれはしめた！」と全部取ってしまいます。こっちはなし、そんなことはあり得ない。他でまた取っていってしまう（笑）。

【参加者】

向こうでは、自動販売機は珍しいみたいですね。

【水源師】

あっちでは、それが泥んこを投げる子どもなのよ。それで罪悪感ゼロ。あれは「これは置いたやつがバカだから、盗られる」と。では、経済が発展するわけないでしょう？ 経済というのは、ちゃんとモラルがきちりしたら、発展します。お互いできるだけ、あなたの労働価値はこれで、私の労働価値、それを換算して、そして回るように。そうしたら、皆が栄えるけれども、「一人だけ乱暴で、物を取って食べて、神様が許してくれる」と言ったら、みんなそっちに行っちゃうでしょう？

外国の罫

【参加者】

ちらっと先生が「これから日本は大丈夫でしょう」っておっしゃってくださったのですが。

【水源師】

今日の皆さん、瞑想をこの3日間でやって、何か憑（つ）きが取れたみたい、ここに憑いていたものが。そんなスカーッと晴れる。原因はここだったみたいです。誰か、その行者がいて、ここで悪いことをしたんだね。それで、この日本が発生した。現代における日本。

【参加者】

その悪い行者さんは、この山で悪い行をされたのですか。

【水源師】

何かこれは外国からやられたかもわからない、日本国内ではなく。分からない行者を使っ

て変なことをしたみたい。どうもそんな感じ。日本は 400 年前に罠にはまったわけ。ずうっと狙われて、明治維新で完全にもう。日本で言えば、土佐藩の方に、これは失礼だけれど、結局、坂本龍馬を脱藩したでしょう？ 脱藩ということは、昔、これは大変なことなのよ。国を裏切ったことになる。今は英雄になっているけれど。そして、彼がカウボーイブーツを履いているわけ。龍馬の博物館に、そして拳銃を持っているわけ、その当時。今、カウボーイブーツを履いて拳銃を持ったら、すぐ警察に捕まるよ（笑）。その当時それをしたということは結局、完全に、はっきり言って「テロに近い集団」だったわけ。実は、京都で荒らしまわったわけ。今、ちょうどリビア、シリア、イラクみたいに、アンスタビライザーといって、国を揺るがすわけ。それで外国に入ってくるわけ。その手を使うわけ。だから「国盗り物語」なの。それを知識がないから、皆さんは分からない。

だから、今、ウクライナでそれをやろうとしたわけ。アンスタビライザーで「デモクラシー」と言って、過去 10 年間ね。どのくらい使ったと言ったかな？ 1 兆円お金を使ったわけ。今、市民戦争を起こさせるみたいに、頭がおかしくなり始めているわけ。「デモクラシーになれば、全部、金持ちになる」と。「黄金の天国に入る」と。革命を起こしてやったけれど、ところが、全然そうはならないわけ。今はもう食料もない、何もなし、電気もない、もうこの冬どうして暮らしたらよいかと。イギリスとアメリカは「じゃあ 1000 億の武器、弾薬はすぐやります」と。「食糧費はまあ 1500 万か」（笑）。「戦うのだったら、いくらでも武器やる」と。でも、本当に必要なものはちょっとだけ（笑）。だから、戦えば「オーよしよし」と、国が盗れるわけ。というのは、北アメリカが、その当時 6000 万のインディアンがいたわけ、ダーツと部族闘争やらすわけ。いなくなるでしょう？ そしてスーッと入ってくるわけ。戦わずに入っていけると。今はウクライナで殺し合いをやって、へこたれて全部なくなるでしょう。そうしたら、外国からスーッと行って「ハイ、ありがとう」となるわけ。

【参加者】

それをやったカルマが、また当然、返ってくるわけですよ？

【水源師】

もちろん。だから、今、イギリス無茶苦茶。今、スコットランドが騙しにあって、独立しようとしたけれど、突然ひっくり返って、しないとなったけれど、あれが何か選挙違反で、イエスがノーのところはいっぱい入ったり、全部メディアとかスターとか出して宣伝。そういうことをするのは、それはご法度なわけ。だから、これはただで済まないと思う、このカルマ。約束したことを今、反故にしようとしているから。これはただで済まないよ。いつも約束するわけ。それを後で反故しちゃうわけ。力があるでしょう、サインさせるでしょう？

自分の都合のよいときは、絶対、守らせるわけ。都合が悪くなったら、ご破算にして書き換えるわけ、TPP はもう完全に。だって、どんな政治家も、国会議員が一体、何が起こるか分からないのよ。何の条約やって、ほとんど何も見ていないということ。それで、上で決定してしまうわけ。一旦サインしたらサインしたでしょうと、国会議員も何も関係ないわけ。でも、この国は皆さんが国会議員を出したでしょう？ だから民衆の意思は全然、反映されな

い、よその国が、ここの国を行政をやりますということ。

国の象徴—盗る国と盗られる国—

【参加者】

それも先ほどの同じ似論の支配の仕方ということですか。

【水源師】

そうです。そりゃあそうでしょう。昔から国も「国盗り物語」で獲物になる国か、獲物を盗る国かになるわけ。だからアメリカは鷹でしょう、獲物をとってくる。インドは孔雀なのですよ、やられる方。だから面白いもので、国の象徴を見たら大体。カナダはビーバーさんなの。ビーバーとかムース（ヘラジカ）。やられる方（笑）。日本は鶴、やられる方だね（笑）。

【参加者】

ダメだ。

【参加者】

ブータンは龍ですか。

【水源師】

あ、ブータンそうですか？ 中国は龍じゃないですか？ 分からない、本当の国の象徴として出しているのが。インドが孔雀だったら、これはやられますね。象さんになったりとかね。国の旗章、イギリスはライオンとユニコーンなのですよ、頭と力（笑）。

【参加者】

最強ですね。

【水源師】

これ、タチ悪いよ（笑）。力があって頭がよいからもう。鶴さんなんて一発で（笑）。きれいな日の丸を付けて（笑）。だから、そこを忘れてるわけね。国はみんなこう、そういうことないと。国自体も盗る国と盗られる国とあるわけ。だから、昔モンゴルは中国に攻めていかなければいけないわけ。何も無い。何も無いから、あるのは牛と、この服も革で作るくらいで、きれいなシルクとか何も無いわけ。売らないとなったら、力づくで取らざるを得ないでしょう？ それで何回でも何回でも攻めていくわけ。あの巨大な国でしょう、相撲さんみたいに。

【参加者】

だから強いのでしょうかね！

【水源師】

そうよ、その悪い人間だって、そうじゃないよ。ものすごく人がよいし、朗らかで。ないから取りに行くだけの用。

ジャイナ教

【参加者】

今、新しいお相撲さん、すごいですよね。モンゴルでいっぱい、出てきて。

【水源師】

モンゴルの最も大切な食べ物は何だと思えますか？ 最も大切な食べ物というか、お茶なのですよ。お茶を乾かして固めたやつ。それが非常に高価なわけ。お茶はないわけ。そのお茶だけでも戦争しちゃう。このお茶はなぜ大切かと言ったら、バターミルク飲むでしょう？ 食べるのに、お茶が入らなければ、これができないわけ。

その大昔、どうしてスペインが東洋に来て交易したかと言えば、あつちは東洋のインドのカレーとかスパイス、あれは金の重さと同じ値なのですよ、価値が。それは全部ペルシャを通っていくから、それをバイパスして行ったわけ。だから、ペルシャ帝国が大金持ちなわけ、シルクロードだから。それが入らなければ、肉が食べられないわけ。塩だけでは、それはよいのだけれど、そのスパイスを入れたらおいしいこと。一旦、口にしたら、王族だけが食べられるわけ。だから、一般の庶民も食べたいから、そういうふうに欲しいわけですよ。だから、金の重さと同じ価値になってしまっている。

一番よいのは、インドを盗ってしまったら、もう石油みたいで。もう全世界制覇なわけ。まあ全ては強欲というか、商売というか、穴穴ばかり、こう潜り抜けて、正道でいかないから、さっき言ったように、結局カルマというか。正当なカルマでいけば、インドのジャイナ教ですか。非常に、その当時、私がインドに行ったら、若い女の子がサーッと白い服を着て寄ってくるわけ。「写真と一緒に取りたいのですけど」と。「ああ、どうぞ」と、タージ・マハルで。「でもですね、私たちの衣には絶対、触れないでください、お願いします」と言うわけ。そうなのよ。女性の衣さえも触ってはダメ。もちろん手で触るのはご法度。

ただ傍に来て、こう何かあるでしょう。故意でなくても、ちょっと触ることがあるじゃないですか。こう触れてね。「そういうことを、気を付けてください」と。だから、絶対に空間を置いて、近くのようにも。絶対に触らないように私もして、相手もして、戒律があるから、触ってはいけない。というのは、私はそういう社会の人たちにとっては、うじ虫みたいなわけ。汚いとか、そういうことがあるかも分かりませんよ。衣に付いて、衣からそっちに移るとか(笑)。いや、だからその方たちはマスクをするのですよ。マスクをして虫も殺さないよ。

【参加者】

その方たちは、ジャイナ教の尼僧さんなのですか。それともただ一般の方ですか。

【水源師】

一般の方。ジャイナ教は、尼僧はありません。信者さんでも戒律を守って、10回以上の何か戒律を守って、インドでは1%くらいしかいないですね。この人たちが50%の富を持っているわけ。だから、全ての大金持ちは、このジャイナ教の方で、タタという自動車会社とか、世界最大の製鉄会社は、このジャイナ教の方々。

それで、カルマは非常にしっかり見えていますよ。それが非常に仏教と似ているわけ、でも、ちょっと違うところもある。仏教と彼らのジャイナ教のお話が入り乱れている。でも瞑想だけ。最高の行者は、ひも一本、体に付けない。素っ裸、あるがまま。持っているのは弁当箱(笑)。最高のお坊さんですよ。

だから、そこに行って、インディラ・ガンジーがこう拝んで法話を聞きに行くわけですよ。一切、食器を使いませんよ。食べるのも、こうして水をカッと。こうしてカッと、これだけ。スプーンも一切、あるがままのこの手で。だから、見たら何かお猿さんが食べているような感じ。人間の文明に一切、触れないという。

【参加者】

今でも修行されている方がいるのですか。

【水源師】

います、今でもちゃんと。非常に仏教によく似ている。お釈迦様が出た時代のすぐそこら辺あたりで、ほとんど勘違いするような、その方のブッダがあるわけですよ。非常にまたよく似ているから、すごく混同してしまいますよ。

だから、2500年の間に相当、経典が入り乱れているかもしれません。それに比べれば、仏教は非常に優しくて親切な一般衆生のために誰でもだけれども、そのジャイナ教はジャイナ教の人のためのもので絶対入れないです。よその人は入れない。知りたいと言ってもダメ。私たちのこの集団に生まれればオーケー、生まれなければダメと。解放はされています。

【参加者】

でも、慈悲とかの考えは一緒なのですか。

【水源師】

そうです、一緒。この中だけでやっている。

【参加者】

カルマを複雑にしないというか？

【水源師】

そんな感じかもわからないけども、私はただこう見たけども、一般の見た感じは、とても

清純な方ばかり、本当に清純な方ばかりで、その方とお話ししたり、ちょっとちらっと見て別れただけ。

【参加者】

じゃあ、お話しすれば、分かるわけですね？

【水源師】

もちろん。全然、壁なし、その私とは。他の人は分からないけれど。普通は話しかけないですよ、なぜかサーッと来て。

【参加者】

純潔を守っている感じですか。

【水源師】

まあ分からないけれど、それは私たちの考えと、その中の考えは分からないから、分かりません。ただ清々しい方々ばかりでした。変な妬みとか、そういうふうなバイブレーション一つもない、それはそれでオーケーという。イスラム教徒の町があるのですよ。そこは非常にきれいなのですよ。ヒンズーの方はやはり非常に汚い。ゴチャゴチャゴチャゴチャして何かもう寝転んでいる牛さんはいるし。やはりイスラームの人でも、インドでは動物は殺さないみたい。なぜかといったら、イスラームの町で歩いていたら、野生のでっかいイノシシ。ゴロツとそこいらに寝ている。インドではイノシシさんが一番なのですよ。誰も殺さないから、あちこち歩き回っては食べて、それで犬はその下、野犬は追い出される。

【参加者】

じゃあ、イノシシは突進してとか、獰猛ではないのですね？

【水源師】

関係ない、人間がいようが、自分たちはボーっとして（笑）。トンコトンコ歩いて全く関係ない。どれも食べられることがないから。インドでは、肉を食べるのは、これは非常に野蛮な人と。野蛮人だけが肉を食べると。ヒンズーも食べない。イスラームは絶対豚を食べない。そうしたらフリー。だから、インドでは、イノシシさんはインドが天国。本当のイノシシ、毛がモジャモジャで、豚ではないよ、イノシシ。

旅の醍醐味

【参加者】

増えて増えてしょうがないとか、そういうことはないのですか。

【水源師】

分からないけど、誰も触らないし、まあ中国で生まれたら、かわいそうに「あらまあ、おいしい肉が来て」と（笑）。まあ、中国の方はブタの作り方がおいしくてね。本当、本当。焼き豚ってあるでしょう、何か特別なんでしょうね。皮が最高級品なので。私も中国のマーケットに行って、買って食べたのだけれど、お祝いがあるときは「それがよい」と食べるわけ。それが最高の食べ物。

今度、エクアドルに行ったら、同じようなものがあるけど、豚の肉はくれるけれど、皮あるでしょう？ それは少ししか付けない。ものすごく高級なわけよ。皮をきれいに一緒に焼いた場合は、お菓子より何か味があるわけ。カリッとしておいしいなあ。豚さんに悪いけれど（笑）。エクアドルでは安くないのよ。なぜか知らないけれど、インカの文明と遠い離れた中国、同じ味を覚えているわけよ。それがびっくりするということ。それが豚はなかったと思うのだけれどね。

近年において入って、それが流行したのか、それは分からないけど、非常に、この食べ物は受けています。私の旅の醍醐味は、普通の小さい町に行って、どこにでもあるところで、庶民の方が食べる中で食べるのが、一番の楽しみなのです。なぜかといったら、味はよいでしょう、安いでしょう、お腹下さないのですよ。高級レストランに行くでしょう？ そうしたら、どうもお腹の調子がおかしくなることが多い。それで、食べ物もカナダとほとんど変わらないわけ。

なぜかといったら、そういうすごい高いお金で買ってくれる旅人と言ったら、観光客か、来ないかでしょう？ そうしたら、作ってためておいて出されたら、そういうことになりやすいと思いますね。だから、もう絶対に食べる場所は、人がいっぱい入っているローカル、まあ絶対大丈夫、当たらない。だから食べる方は旅するでしょう？ お客さんがいっぱいいるところ、それもローカルで、バンバン、「あ、これは大丈夫」と。安いし、おいしいわけ。たまに味がものすごくよい。

それが1回台湾に行って、もう行列をなして列が切れないわけ。朝から晩まで。それで、たまたまそこで食べようということになって、そこで食べたわけ。まあ超最高の中華料理店よりもおいしいものを出すわけ、それも安くて。それが旅の醍醐味ですね。

特にペルーの名も知れない、チリに近いアタカマ砂漠の近くのオアシスの町で、体が弱くなって、どうしても体力つけなければいけないし、食べ物も粗雑で、それでワインを政府のところから買ったわけ。それでも「アーおいしいな」と、結構、安くないのですよ、ボトルで1200円くらいで。とてもよいワイン。

それで、今度は小さな屋台みたいな、いっぱいそういうスーパーがあるわけ。こっちはスーパーってでっかいでしょう？ あっちはこう夜店みたいに、ダーッと並んでいるわけ。そこで「このワインいくら」と言ったら「300円くらいだ」って。じゃあ、味が悪くても何でも、薬として飲むからね。「ハイ下さい」と言って、飲んだら、何とこのワインが、トロントで私とその昔、カリフォルニアの最高級のボトル1本1万円よりおいしいわけですよ。これは当たり前ものだったのですね。喜んで2、3杯、5杯飲んじゃった（笑）。

それで、またお酒の話になるけど、何か坊主だか酒飲みだか分からないけど（笑）、それで

山から下りてきて、高いヒマラヤ、疲れているでしょう？ もう体がクタクタなわけですよ。それでカトマンズの居酒屋に行ったわけ。皆、飲んでいるのだけれど、おいしそうな日本酒みたいなのがあったから、「コレ、コレ」と言ったら、なぜか隠しているわけ、なぜか知らないけど。「これ」と言って、そうしたら1杯10円くらいなのですね、このコップ。そして、飲んだらワー、古吟醸酒といって超高級な日本酒あるでしょう？ あれよりおいしいのですよ。

1回、大阪で1杯5000円の原酒で何とか何とかを飲んだけれど、それよりおいしいのです。たった10円（笑）。だから、金の価値というのは自分で発見するくらいで、高いからよいということではないわけ。それはおいしいですよ。これはしめたと思って、ガボガボ飲んで（笑）、もう二度と出会えなかったけれど。

【参加者】

その土地で造られたお酒なのですか。

【水源師】

そう、お米からできた、独特な造り方のお酒があるわけなの。そのお酒も古吟醸酒とか何とかいう最高級の味を出している。

【参加者】

お米からお酒を造るのは、日本だけではないのですね？

【水源師】

韓国もあるし、中国もあるし、タイもあるし、もうお米のあるところは全部。でも、最高級のお酒に出会ったのはネパールです。何か酒飲みの旅みたいな（笑）。「疲れた」と言い訳しながら（笑）、まあそこが私の醍醐味ですね。そして、すごい料理に出会うことね。うどんでも、それが地元のおばあちゃんか誰かが、精魂込めて味を出して、その秘術があるわけですよ。そういうことは宣伝もしないし、誰も分からないでしょう？ 人がいっぱいたかって食べるわけ。だから、私も、はい、食べた、いや、これはすごいと。

どこだったか、チェンマイの近くかな？ あそこでお腹が空いて、鶏肉を揚げたものがあるわけ。ちょっと買って食べたらおいしいから、次に日に行ったら、売り切れでないわけ。がんばって行ったら、私に少ししかくれないわけ、それだけ人が来てサッと買って、作り方がおいしくて。他で食べても、これだけおいしいチキンの揚げというか、揚げ方があるのだと思う。何か特別なやり方だと思う。というふうに、苦勞するけれども、知らない街に旅歩いて、そういう楽しみはあります。

【参加者】

観光で行ったら、味わえない？

【水源師】

時間かかります。私がおの昔 1 カ月、プノンペンにいたのですよ。安宿に泊まって、安宿に泊まっても、朝な夕なにレストランで食べるでしょう？ それが 1 杯コーヒー屋さんをまず飲みに行くわけ。地元のコーヒーショップで、広場で。そうしたら、南風のヤシの風を吹かせながら、スーッと入ってくるでしょう。それはすごくカリブ海のコーヒーホテルで飲んだコーヒーよりも、そこがおいしいわけですよ、道行く人がサーッと行って。そのカリブ海のリゾートですか？ そういうところはもう全部セッティングされて、それはもうきれいですよ。でも、その観光客内でしょう？ そこでは人の流れを見ながら、こうして飲むでしょう。いやーそれはまたすばらしい。まあ何という遊びの旅なのか（笑）？

【参加者】

今回の（先生の）湖のクティ造りでも、ランプを付けるのでも、使わないものをたまたま取っておいて、20 年くらいか、それを取っておいて、それを役立てる、物を生かして捨てないで、ドアも取っておいて、今で買えば、とても高いものなのでしょうけれど、それをちゃんと取っておいて、最初は合わないのだけれども、何とか何とか合わすようにとか、物を大事にして生かすということが、旅のところにも表れているのではないのでしょうか。

【水源師】

そうですね。「因縁を生かす」という、「お金を生かす」と。ということが「仏法」と言っていますよ。実際の生活に役立たなければ、仏法ではない。だから、捨てるような、そういうふうなものでも飾るでしょう。ピカピカ光り始める、ピターッと。それが今はもう手に入らない。だから、人間は流行に溺れて、どんどん捨てていくでしょう。

ところが、今それを買おうとしたらないから、作らせたら莫大な金になる。あっても、そのようなステンドグラスはもうないです。プラスチック・グラスって、プラスチックを合わせて、そう見せるだけ。ま、そういうところですが、今は四方や話になって。

巨大な石を動かす秘術

【参加者】

ミャンマーにあるゴールデンローブというのがありますね、石の金箔を貼っている、あそこは、やはり聖地となる場所ですか。

【水源師】

もちろん聖地です。というのは、今から 2000 年前に、そのアラハト（阿羅漢）が海の中に人間の頭の恰好をした石があると。この石の形はお釈迦様の頭がい骨と同じような形をしているということで、神通の力を持って海から空中に上げて、そこに置いたらしいそうです。だから、落ちるはずなのに落ちないわけ。地震があっても、そこに止まっているわけ。その下に入れたのか、その近くに小さいパゴダがあるのですね。お釈迦様の毛が 3 本入っている

と聞いています。私もちょっとそこに金箔を貼ってきた。

【参加者】

「何か起こしたら、何か動くみたいだ」と言っていました。

【水源師】

かもしれないね。2000年ずり落ちないで、そこにずうっと。話を聞いたら、自然にそこにあるのでなく、海中から持ち上げて、神通力で置いたと。また話はちょっと変わるけれども、チベットには石を動かす秘術があるわけなのです。それは音をバイブレーションさせて、大体500メートルくらい高いところにバーンと石を持ち上げていくわけ。バーン、バーンと。

【参加者】

映画というか、何かそんなような感覚ですね。

【水源師】

そうです。1930年代に、それを実験した人が、写真で、そのやり方の写真を1回、見たことがある。

【参加者】

今でも伝承されているのですか。

【水源師】

さー、分らないです。ただ、バイブレーションを使ってやったと。アメリカのフロリダに、身長が150センチで50キロあるかないかの人が、巨大な石のお城を造ってあるわけなのです。その人は絶対に見せないわけ。この人は、私はどういうふうにエジプトのピラミッドを造ったかを知っていますと。教えなくて去っていったわけ。巨大なこういう石のドアあるでしょう？ 指一本で開いたり閉まったりする。彼一人で全部、造った。検索したら出てきますよ。この人は、いつでも新品なお札100ドル、いつでも持っていた。

その当時、ルビー1カラットは1ドルなのです。ルビーではなくエメラルド。そのとき、エメラルド1カラットは1ドルなのです。今、このエメラルド1カラットは、いくらすると思いますか？ ちょっと想像で。女性、分かります？ 1カラット。0.25グラムが1カラット。今から20年前で1000万円。だから、今はそこからどれくらい上がっているか？ 結局、1ドルが10万ドル。そのときに、彼はいつも新札100ドルを持っているわけ。この人は働いたことがないわけ。現物として、そういうお城があるわけ。今でも行ったらそこにあるわけ。

ただ、人に絶対見せないけれど、その近所の子が、この人は空中に石を上げて動かしていたという。隠れて子どもたちが見ていたら、空中に石を持ち上げて、やっていたみたい。でも、人には絶対見せないという。人が来たら絶対仕事しない。これも仏法の話とは、ちょっと変わって、ただ不思議な話で、おとぎ話。面白いでしょう？ 私の話は、もう聞けない話

ばっかりで、これ本当の現実の話よ、あるんですよ。嘘じゃなく、ちゃんと文献にも、その人の写真もちょうどあるから。

【参加者】

それも神通力の一つなのですか。

【水源師】

何か太古の秘密の技術を持っていったって。それは教えないで去っていったって。中国でもすばらしい妙薬をつくるのですよ。癌でも何でも治ると。一代限り。これを教えないで大体、去っていく。だから、すごい魔法の薬をいっぱい作ったのだけれども、その人、生きてるときだけで、後は全部、後には教えないで、去っていつている。秘伝は教えないみたい。

【参加者】

それは後々、伝えたがために悪用される危険があるということですか。

【水源師】

かもしれないね、ほとんど悪用しちゃうね。だから神様だって悪用するでしょう？ 私は神の言うとおりにやっている。だから、世の中がだんだん暗くなっていくわけ。カルマが溜まって、溜まって、溜まって。そこで浄化するのが、この瞑想。

浮こうとしたら沈み、沈もうとしたら浮く

【参加者】

それは個人のカルマの解消というか、進化のために瞑想することが、地域だったり、国だったり、そういった大きなカルマの解消も？

【水源師】

も、助けます。どんどん大きくなっていけば、その周りの人から社会の、最後には国まで助けてしまいます。

【参加者】

それは自分自身が意識しないで瞑想していてもなるのですか。

【水源師】

意識したらできません。意識しないからできます。あのね、泳ぐでしょう？ 水の上で浮こうとしたら絶対沈むから。沈もうと思うでしょう？ そうしたら絶対浮くから。逆なのです。だから、自分で悟り開こうと思ったら絶対開けない。基本どおりにコツコツと、そして帰依して純化して行って、そういう過去の偉大なお坊さんとか、心から敬服していけば、ただた

だ崇めて「自分はそういうものではない」ということになれば、水の中に沈もうとするわけ。そうしたら、不思議とプーッと浮かんでくるわけ。それが「自分がそういう方より偉くなるろう、偉くなるろう」としたら、グーッと沈むわけ。

神通で人を助ける

【参加者】

帰依の気持ちが大変ですね？

【水源師】

そうですね。ま、そういうことも考えないで、ただただやっていけば。失礼だけれども、非常に天才的に頭がよいほど、非常に救いがたいわけ。でも、そういう方は、ただ一つ利点があるわけ。頭がよい代わりに、ものすごくよく見えるから、疑問が発生するわけ。ただ、そのときに非常に高級で宮殿に住んだり、そうして厚遇された場合には、お釈迦様みたいに捨てて、そっちに行くというのは、まず無理だから、そこで非常に葛藤するみたいですね。だから、頭が非常によくて何でも分かるから、よいと思うでしょう？ でも、そういうふうな人は、そういう学問をした場合には、ドンドコお金が入ってくるし、でも、またそういう世界があるような、その葛藤で非常に苦しみが発生します。

だから、大金持ちほど、すごい寄進するわけですよ。お寺とか教会とか莫大な、慈善事業とか。大学とか100億、200億とか。ボンボコやってしまう。あるとき、今から30年前くらいかな、バンクーバーで200億の大金持ちが全部寄付して、自分は小さなアパートに住んで、一切。この人はインド関係の出身で、何か不動産で儲けたみたいで。何か分かったのですね。一切、手放すでしょう？ カルマとか何か、観たのかも。

有名な話はね、スターバックス知っているでしょう？ あそこの創始者が莫大な金をサイババに寄付したわけ。というのは、サイババが、この人が若いとき、死ぬときに助けたわけ。20回訪ねて行って、最終的に出会って、そのとき今、死んだサイババさんが「あなたはこのとき車から崖から落ちて死にそうだったでしょう？ でも、あなたは傷一つ、付かなかつたでしょう？ それを私がしたのですよ」と。このことは誰も知らないはずなのに、彼が知っているわけ。ということは神通を持てばできるわけ。

私の生徒も人の命を救ったわけ。なぜかといったら、突然パーッとしたら、自分の同僚が壁に突っ込んで死ぬことをしたわけ。それをパーンとハンドブレーキで止めたわけ。そうしたら、その同僚が帰ってきて「私の傍にエンジェルが降りてきて車を止めた」と言うわけ。これは実際の話。この人はお医者さん。精神科のお医者さん。

それで私の友人が「自分の孫が、口が聞けない」と。「言えないという言語障害で、今度、手術する」と、私に言うわけ、「どうしたものか、何か方法はあるか」と。「【水源師】よし、よし、じゃあ、聞いてみるから」、この神通の生徒に「【水源師】こういう状況だけど」。「【神通の生徒】この子は三つのときに、すごく恐ろしい夢を見たはず。その夢をすぐ解消すれば、すぐ話せるから」と。それで、私の友人に「【水源師】あなたのお孫さんは三つのときに、す

ごいうなされる夢を見たはずだから、お母さんに言って『この夢はそんなに怖くない』というのを教えてあげたら治るよ」と言ったわけ。そうしたら、手術なしに全部オーケー。

というふうに現代医学では、このエリアは分からないわけ。たまたま私の生徒がお医者さんで神通を持っているから、私を通して、たまたま私の友人が聞いてきたから、この子どもは助かったわけ。それまで言語学の訓練とか、いっぱいお金を使って、あちこちに莫大なお金を使ってやっていたわけ。とうとう手を上げて今度、手術するとなった。それで、原因はこの夢だったわけ。これが普通の神がかりの人だったら、まあまあだけど、お医者さんが言うものだから。実は、彼は知らないよ。でも、これが現実の話。

合宿の感想

【司会者】

今回の合宿の感想を一言ずつお願いいたします。

【参加者】

あまり迷いがなくなったというか、とりあえずやっていく道行きが整備されたような感じがします。しばらくやっていこうかと思っています。

【参加者】

少しだけ心の進化があったかなという感じがして、以前よりは精神状態が安定してきて、参加してよかったと思っています。

【参加者】

私はいろいろお話を聞きたいことを全て聞けたことも大きいのですが、やはり修行のときの半眼が、どうしても本では「半眼でやれ」と書いてあるだけだけど、先生の場合は「半眼はちょっと光が入るくらい」とか細かいところまでおっしゃってくださったので、これから初歩からやっていくうえで、大変、参考になってよかったです。

【参加者】

いろいろ今まで北伝、南伝いろいろかじってしまっ、ゴチャゴチャしていたものが、スッとこうまとまって、すんなり瞑想に入ることができて、また何回もやっていくうちに段々とリラックスして集中できるまでいけたことが、今回とても大きな私としての収穫でした。先生からのお話の中で、今まで気持ち的に揺らいでいたものも、まとまって自分なりの解決がついたので、それを瞑想と併せて、心の方もどんどん進化の方に向けていけたらいいなと思って、今、気持ちを新たにすることができました。

【参加者】

私も、とてもこの2泊3日で自分を振り返るすごくよい機会になって、やはり私もこれか

らどういふうに進んでよいかということが見えてきたのかな、というふうに実感を致しました。本当に有り難うございました。

【参加者】

皆さんと同じような意見なのですが、一番最初に戻った感じで、水源先生のインタビューを受けてからの瞑想というのが、1時間坐っていても、まだこれから坐れるみたいに、全然疲れなくなったのですね。こうニミッタも楽しみながら、もう1回来たら迎え入れるような感じで、ちょっと楽しみが増えたというか。有り難うございました。

【参加者】

私も本当にここに来て、先生にお会いした瞬間から、うれしくて楽しくてしょうがなくて、でも、それが今まで続いて足も全然痛くないですし、1時間くらい来たところで「もうちょっと坐れるな」くらいの感じで、すごく本当に楽でした。皆さんも、素晴らしい方々に恵まれて本当によかったです。どうも有り難うございました。

【水源師】

皆さんがこう集まれば、天界から応援してくれるのですね。いや、皆さんよく来てくださいます、本当に有り難うございます。

【参加者】

この合宿が4回目なのです。家で朝ちょこちょこ坐っているのですが、やはり本当に年に1回こういうふう集中して、先生と皆さんと一緒に坐ると、本当に貴重な機会、今回も初めての経験をすることができて、またこれを続けていきたいと思えます。

【スタッフ】

2泊3日で短いかなと思ったのですが、1日1日坐るごとに浄化していくというのでしょうか、皆さんもそれぞれアー深く坐られているのだな、というのが感じられて、すごくよかったですね。短かったけれど、各々が先生を通して納得いくような、これから指針というのできてくださったようで、非常にうれしいですね。また機会ありましたら、また参加してください。有り難うございました。

【スタッフ】

今回はリクエスト形式のご法話ということで、一層、廣大無辺の、素晴らしいダンマを聞かせていただいて、大変、有り難いことでした。そして、この八大龍王様の生駒山を通して、先生の業力でもって、日本を浄化していただいた場に、こうして皆様とご一緒に立ち会わせていただけて、また、ご一緒に2泊3日、法を楽しませていただけたことは、何より有り難いことで、この場をお借りしまして、皆様に深く感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

【水源師】

皆さんは感じなかったかもしれませんが、プーンと終わった後、ここを通るとき、焼け焦げの匂いがしていました。「浄化した」、「焼き払った」ということ。だから、うまくいったのだなと思いました。

【参加者】

護摩焚きの前に浄化したということですね？ これから護摩焼きやりますよね？（笑）

【水源師】

だから、護摩焚きもうまくいきますよ。あとはリラックスして、護摩焚き見て、その前にお食事して、また事故のないように、ゆっくり帰ってください。またお会いできますことをお願いいたします。すばらしい瞑想会になって、とてもうれしいです。

皆さんそれぞれよいお土産を出すことができ、ここ（木彫りの仏像）の不動明王様も、がんばってくれましたよ。実は、この方は青不動明王なのです。青不動明王は滅多に出ないので。



合宿後の不動尊護摩供

水源禪師法話集 34

(2014年9月28日 生駒合宿)

2015年9月3日 発行

編集兼発行 一乗会